

NO!リニア

No. 7 4

2013年12月5日

JR東海労働組合
リニア反対プロジェクト

試算はリニア黒字、東海道新幹線赤字！ 現在は逆転、一体どういうこと？ 1988年当時のリニア計画 その3

『関西経済連合会刊』（1989年1月）に葛西会長（当時・常務取締役・リニア対策本部長）が1988年（昭和63年）10月31日に行った講演録によると、リニア中央新幹線は30年で1兆3,000億円の黒字で、東海道新幹線が2兆5,000億円の赤字と試算しています。差し引き1兆2,000億円の赤字分は、建設費（3兆円）の3分の1を国負担とすることで補填を考えていたというものです。

ところが、現在になって、山田社長は「リニア中央新幹線単独では採算はとれない。東海道新幹線と一緒に運営して何とか会社がやっていけるか、ということだ」と記者会見で述べています。つまり、リニアは赤字だから、補填は東海道新幹線の収益で補うということです。

一体、これはどういうことなのでしょう？なぜ試算が逆転したのでしょうか？

1988年当時の試算は、建設費（そもそも3兆円でできるはずがないのだが）の3分の1を国負担とすることでリニアが黒字だということです。現在は、建設費は全額負担、しかも3倍の9兆円強（これも甘い試算と思われるが）です。そうすると、山田社長が言うリニア赤字は間違いないといえます。

一方、東海道新幹線の収益はどうなるのでしょうか？答えは分かりません。分かっていることは、東海道新幹線の旅客の半分以上がリニアに移る（収益が大幅に落ち込む）ことです。会社は、山田社長見解で示したリニア及び東海道新幹線の収益見通しを具体的に明らかにすべきです。

全社員の皆さん、収益見通しが逆転したり、数値を明らかに出来ないような計画は信用できますか？計画の一貫性すらないリニア建設は直ちに止めるべきです。

全社員の皆さん、これでもリニア建設を支持しますか？

